

精神面成長 手応え 相馬

男子八種競技は相馬大翔（盛岡市立3年）が5601点の2位で「インターハイにつながるプレーができた」と達成感を感じさせた。

最終種目の1500mは予定より約2時間遅れ、午後7時50分にスタートしたが、最後まで気持ちを切らさなかった。2組目で出場した相馬

は、号砲とともに集団から抜け出すと終盤まで先頭に立った。総合トップの千葉遼（東北学院3年）が激しく追い上げ、残り200mで先頭は譲ったが、最後まで力走し組3着でゴール。終了後は種目出場者全員で健闘をたたえた。



男子八種競技 最終種目の1500mを組3着で終え、5601点の2位だった相馬大翔（右、盛岡市立）。左は総合優勝した千葉遼（東北学院）

たえ合った。

1500mの直前に行われた「得意種目」の走り高跳びでは唯一1m95を成功。跳躍や投てき種目は3位以内と得点を伸ばし、苦手意識のあるスプリント種目でも上位を争った。

5月の県高校総体では、5792点をマークし、県高校記録を更新し

て2連覇した。精神面の成長を実感し「八種競技になっても各種目ともベストに近い成績を出せている」と力を込める。

15日は走り高跳びにもエントリー。「こっちは全国に行きたいんです」と疲れを見せず、目標のインターハイ優勝へ一歩ずつ近づいている。

（石森明洋）